



校長室だより

学校と家庭・地域を結ぶ架け橋通信

第15号 令和3年10月22日

小美玉市立美野里中学校

素晴らしい躍動感！そして伝統の力

9月までのコロナの影響で、本校のみならず、社会全般で多くの行事や大会等が制限されてきました。

しかし、コロナの感染状況が好転する中、10月19日に行われた中央地区駅伝では、本校が男女アベック優勝を飾りました。男子は3連覇。女子は4連覇です。

私も応援に行っていましたが、手に汗握る展開の中、選手たちは見事に走り切りました。

練習を10月5日からしか始められなかったにも関わらず、先生方の熱心なご指導もあって、朝夕走り込みを続け、結果に結び付けました。県大会に向けて、新たな挑戦が始まります。

さらに、昨日、秋晴れのもと、本校の体育祭「美中祭」を行うことができました。密を避けるために、学年ごとの開催となり、3年生が先陣を切って行いました。

生徒たちは、夏休み前から競技を考え、話し合い、夏休み中に学級旗やクラスのシンボル T シャツを作成しました。ようやく通常登校になってから、競技の練習を開始し、開催に至りました。実行委員を中心に、自主的な運営がなされ、その他の生徒もそれに協力して、美中祭をみんなで盛り上げていました。思い切り体を動かしながら、楽しそうに、クラスや学年の団結力を高めていました。

休み時間等に、後輩たちも3年生の躍動の様子を眺めていました。先輩たちの姿は、しっかりと後輩の目にも焼き付けられたことと思います。1・2年生の美中祭は、新人戦後の11月に開催します。

行事や特別活動、部活動は、生徒に教科指導とは別な活躍の場を与え、自主性を育てられることを強く感じました。子供たちの躍動する姿を間近で見られるのは、教師冥利に尽きます。若者のエネルギーの発露を目の当たりにしていると、これからの世界を動かすほどの大きな可能性を感じます。

もう一つ、生徒の活躍から感じるのは、伝統の力です。駅伝の連覇は、伝統の力に

他なりません。まさに、たすきを引き継いでいます。今回の活躍は、「あの先輩のようになりたい。」「先輩を越えるように自分たちも頑張りたい。」という先輩へのあこがれや競争心が脈々と受け継がれている証なのだと思います。

美中祭の運営の仕方や盛り上げ方も、後輩たちは3年生から学んだはずです。さまざまな形で、3年生の姿は、1・2年生の心に刻まれています。



本校では、伝統的に、生徒も教職員も「MINORI PRIDE (みのりプライド)」を合い言葉に生活を送っています。PRIDE というからには、そこに人としての品性や向上心、誇りが刻み込まれています。そうした気持ちを各々が持ち続けるならば、さらに素晴らしい伝統が生まれ、引き継がれていくに違いありません。美野里中学校は、大きなエネルギーと可能性に満ちています。